



2012-2013 年度 第 32 回例会 宇都宮南ロータリークラブ会報

会長：荒井健次 幹事：小林裕 会報委員長：田中正夫
例会場及び例会日：ホテルニューイタヤ《水曜 12：30》
事務所：宇都宮市大通り 2-4-6（ホテルニューイタヤ）
TEL：028 - 635 - 5511（ホテルニューイタヤ）



通算 第 1520 号

2013 年 2 月 13 日



会員数 45 名 出席 28 名

司 会 関口 隆 S. A. A

§ ローターソング「奉仕の理想」

ビジター紹介 坂井 俊司 親睦委員長

§ 柏村 祐司 様・田巻 秀樹 様（卓話者）

会長挨拶 荒井健次 会長

皆さんこんにちは。

先週、2月の理事会に於いて、3月4月のプログラムを検討致しました。亙理 RC の方の夜間例会参加が承認されました。山本・若月パスト会長より3年計画での亙理 RC 支援ですので、皆様のご参加をお願い致します。

2月11日にロータリー財団セミナーが開催され、仲田副会長と田口次年度幹事が出席されました。12日には陽北 RC のホストで会長幹事会が開催され出席して参りました。GSE の受け入れについて、今年度は9クラブの中で、前回2クラブがホストを務めましたので、今回は他7クラブでのホストとなります。皆様のご協力をよろしくお願い致します。

幹事報告 小林 裕 幹事

§ ローター困基大会のご案内が届いております。（回覧）

§ ローター財団より、パッケージ・グランドについてのご案内が届いております。（回覧）

§ 世界平和フェローの募集が届いております。（回覧）

§ ハイライトよねやま 155 号が届いております。（回覧）

§ 「2020年オリンピック・パラリンピックを日本で！」のご案内及びバッジが届いております。
（レターボックス配布）

§ 第 2550 地区会長幹事会報告

- ・ GSE フランスより 7 名訪問します。ホームステイ受け入れクラブ順位は宇都宮・南・北・東・西・90 の順です。観光案内クラブとして陽南・陽北が 2 日間ずつとなります。

- ・ 次年度、新地区補助金の申請結果

第 2550 地区に於いて、24 クラブから申請があり、20 クラブは認証、内 市内 9 クラブでは宇都宮東と宇都宮南が認証されました。

§ 例会終了後、理事会を開催致します。



スマイルボックス委員会

山本 幹男 委員長

- § 荒井健次会長 寒い日が続いていますので、体に気を付けて下さい。
- § 小林 裕幹事 雪、降らなくて良かったですね。
- § 村上芳弘会員 今日の午前中にとちぎテレビのニュース番組2月15日のPM6:00とPM9:00に出演する予定の収録をしました。テーマはガソリンスタンドがなぜ厳しいのかの話です。地域に少しでも貢献できるようにしたいと思っています。
- § 菊池 功会員 今日は雪が降らずに安心しました。
- § 喜内敏夫会員 2日前に山仲間が上高地 明神岳へ岩登りに行き、ビバークとなり低体温・凍傷となり長野県消防防災ヘリで收容され、無事に松本の病院に入り、昨日迎えに行きました。無事で良かったです。
- § 小保方信聴会員 皆様、お元気ですか。この所、御不幸が重なって随分欠席してしまいました。お詫びの気持ちでスマイルします。
- § 田村一夫会員 寒い日が続いていますが、体に充分気を付けましょう。早く春にな～れ！
- § 青木克浩会員 メダル獲得が濃厚なレスリングがオリンピック種目から外されそうなニュースがあり、残念です。何とか阻止できないものか？
- § 村田宏明会員 いつもお世話様です。

多くの会員の皆様にご協力戴きありがとうございました。 今週の金額 9,000 円



外部卓話

宇都宮市 伝統文化連絡協議会 会長

柏村 祐司 様

「二荒山神社の菊水祭について
その起源と山車屋台」

※内容は次ページに掲載※



次回例会

出席報告 若林博純 委員長

会員数 45名 前々回1月30日
 出席数 28名 訂正率 75.00%
 欠席数 17名 ビジター 2名
 出席率 66.66%

2月13日(火) 会員卓話
阿久津 均 会員

二荒山神社の菊水祭について その起源と山車屋台

宇都宮市伝統文化連絡協議会々長
柏村 祐司

1 二荒山神社の菊水祭とは

江戸期宇都宮大明神（二荒山神社）の例大祭・・大湯祭とも秋山祭ともいった。

中世、宇都宮氏の時代より続く由緒ある祭り

祭礼の行われる日・・旧暦9月初子午日 社家・神主7月末の子午の日より祭りの日まで、湯屋にて潔斎をつとめる。

祭礼当日 百味の供物を供える

9月9日 朝 社殿の菊水の神事（竹に杉の葉をつけた二束のものを神前に供える）

その後 流鏝馬 朝夕2回 射干4人 三つの的を射る

続いて 祭礼行列 神馬 流鏝馬 神楽方 神主 長柄 大神楽 警護役など

菊水祭の起源と変遷・・大湯祭（秋山祭）の付け祭りとして

・寛文12年（1672）の春、日野町より出火、曲師町は風下になったが、幸い藪の煙を免れた。町中の人々は明神の加護と深く信仰したので、その年の暮れの冬渡祭に、曲師町と日野町で町内の12～13歳の子供数人を、唐尼姿に装わせ手踊りを行い、神輿に供奉し高張提灯をだした。翌年の春渡祭には他町からもだすようになり、市中が混雑したので、翌年の延宝元年（1673）以後、9月の例大祭の付け祭りとして行うようになった。これが菊水祭の始まりである。

・付け祭りは大変な賑わいとなり、延宝元年より3年間は、毎年だが、その後は隔年ごとになった。享保16年（1731）まで59年間に32度に及んだ。

・その後、祭礼踊りの練り歩きは、次第に大規模になり、踊り屋台が出現、江戸から有名人を招いて行列の供奉中に所々で演芸するので、時間を要するようになった。その結果、費用もかかるようになり明治期一時取り止めとなった。

菊水祭の名声 江戸時代の「諸国御祭礼番付」によれば、菊水祭は、江戸の山王祭、神田祭、水戸祭、仙台祭などとともに東国祭礼の最上列、十指の一つに数えられた。

①弘化4年（1847）崎尾家所蔵「日光山大明神祭礼絵巻」に見る菊水祭

参加町内 39町

1番 馬場町 轡 山車 芸屋台（常磐津） 彩色彫刻屋台

2番 宮島町 天狗の山車 芸屋台（常磐津） 彩色彫刻屋台

3番 大工町 餅三木 山車 芸屋台（清元） 彩色彫刻屋台

4番 日野町 獅子 高砂の山車 芸屋台（常磐津） 彩色彫刻屋台

以上4町を神祇町という

以下 39番まで

出し物の特徴 山車、芸屋台、彩色彫刻屋台、花屋台、練り物など様々な出し物

出し物の総数 81 1町内につき 平均2

山車 31台 そのうち剣水熊8台

芸屋台 常磐津、清元を歌う芸人を乗せた屋台 12台

彩色彫刻屋台 20台

花屋台 2台

練り物・学び（仮想行列） 4町内

中央部の商業地ほど出し物の数が多い。

祭礼踊りの練り歩きは、次第に大規模になり、踊り屋台が出現、江戸から有名人を招いて行列

の供奉中に所々で演奏するので、時間を要するようになった。その結果、費用もかかるようになり明治期一時取り止めとなった。

②明治期以降の菊水祭 渡御行列 社家の潔斎 供物の奉納なくなる

明治6年 (1873)

明治12年 (1879)

明治17年 (1884)

同年 県庁が宇都宮へ移転。10月23日に新庁舎開庁式が行われ、10月21、22、23日の3日間におたり山車・屋台の引き直し。

明治22年 (1889) 町村制試行により宇都宮は町制を敷く。人口約3万人。

明治23年 (1890) 宇都宮町主催の国会召集祝賀会が神社で挙行。前年、大日本帝國憲法発布。

明治41年 (1908) 第14師団開庁式ならびに大歓迎会

大正2年 (1913) 大正天皇即位式 44町が参加、花屋台が多い。

大正4年・昭和3年・昭和9年・昭和10年と続き、これが従来の菊水祭の姿の最後となる。

昭和22年 戦後初の菊水祭 山車・屋台等の繰出しなし。空襲による屋台・山車の焼失

③現在の菊水祭

10月末の土日

初日 朝 杉の奠神事 参道での流籠馬 上町鳳れんの渡御、帰還後流籠馬

翌日 朝 黄色菊・白菊を奉納 参道での流籠馬 下町鳳れんの渡御、帰還後 流籠馬

2 菊水祭の果たした役割

- ・町の賑わいを創出

- ・町の経済効果に多大な効果

- ・多くの人々が、町に集まる。祭り見物とともに買い物をする。
- ・山車や屋台の修理・・彩色職人、大工など職人の仕事が増える。
- ・氏子たちは、ご馳走を作り祝う。八百屋・魚屋などがもうかる。
- ・氏子たちが祭りの準備をはじめ、祭り後の慰労会で飲食を行う。 割烹料理店、酒屋がもうかる。
- ・氏子たちが、そろいの半纏、モモヒキ、あるいは羽織・袴に身を飾る。 呉服店、染物店がもうかる。
- ・氏子をはじめ近郷近在からの見物客、着飾って出かける。 呉服屋、履物屋、髪結び等がもうかる。

3 菊水祭の復活にかける・・町の賑わいの創出 故郷の思い出作り

中心市街地の衰退 商業地としての衰退 人口の集積の衰退 魅力的なものの衰退

菊水祭の復活を機に、宇都宮中心市街地の再起動をはかる。

菊水祭の復活の経

現存する屋台・山車の運行・・伝馬町屋台 蓬萊町屋台 大黒町花屋台 木郷町山車
 譲れた屋台・山車の復元・運行・・新石町の火炎太鼓山車、茂登町の人形山車
 新しい花屋台の製作等



火炎太鼓の山車復元に向けた募金活動へのご協力をお願いします。

火災口 際に写した山車復元プロジェクトでは、神奈川県の火災太鼓の山車を復元し、市民参加型イベントを開催しております。山車復元プロジェクトの活動を通じて、市民参加型イベントを開催し、地域の活性化を図ります。火災太鼓の山車は、地域の歴史・文化を伝える重要な文化財です。市民参加型イベントを通じて、地域の活性化を図ります。火災太鼓の山車は、地域の歴史・文化を伝える重要な文化財です。市民参加型イベントを通じて、地域の活性化を図ります。

昔のにぎわい 山車復活プロジェクト
 会長 藤山 幸雄

募金のお申し込みについて

募金は、金額「火災太鼓の山車」復元活動に充てられ、厳格な管理のもと、活動に活用させていただきます。また、復元した山車の運行・展示活動を通じて、市民参加型イベントを開催し、地域の活性化を図ります。火災太鼓の山車は、地域の歴史・文化を伝える重要な文化財です。市民参加型イベントを通じて、地域の活性化を図ります。

募金 1口 10,000円 以上

火災太鼓の山車復元プロジェクトでは、市民参加型イベントを開催し、地域の活性化を図ります。火災太鼓の山車は、地域の歴史・文化を伝える重要な文化財です。市民参加型イベントを通じて、地域の活性化を図ります。

プロジェクト役員

代表者 藤山 幸雄
 会長 藤山 幸雄
 副会長 藤山 幸雄
 実行委員長 藤山 幸雄
 副委員長 藤山 幸雄
 幹事 藤山 幸雄
 庶務 藤山 幸雄
 会計 藤山 幸雄

お問い合わせ先

山車復活プロジェクト 事務局
 〒328-0211 宇都宮市小栗町1-1-1 102号室
 TEL: 028-626-1111 FAX: 028-626-1111
 E-MAIL: info@yamagata-project.com

山車復活プロジェクト 事務局
 〒328-0211 宇都宮市小栗町1-1-1 102号室
 TEL: 028-626-1111 FAX: 028-626-1111
 E-MAIL: info@yamagata-project.com